

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02224

研究課題名(和文)世親作『釈軌論』の総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of Vasubandhu's Vyakhyayukti

研究代表者

上野 牧生 (Ueno, Makio)

大谷大学・文学部・准教授

研究者番号：70460657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は世親(ヴァスバンドゥ)作『釈軌論』を対象とした総合的研究である。『釈軌論』は五世紀・北西インド仏教圏域における経典解釈法と説法例集とを記録した大著であるが、サンスクリット写本は未発見であり、唯一チベット訳の現存が確認されている。本研究は、『三啓集』をはじめとするサンスクリット写本から『釈軌論』の平行文(阿含経典・馬鳴詩・世親の解説)を回収しつつ、『釈軌論』全体にわたるチベット訳テキストと和訳とを整備した。かかる基礎研究を通して、『釈軌論』の全体像、瑜伽行派による経典解釈法、説法者としての世親の側面、馬鳴(アシュヴァゴージャ)から世親へと至る学的系譜が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『釈軌論』は五世紀・北西インド仏教圏域における阿含経典/大乘経典の受容史と、当時・当地における説法者による布教の実際とを記録する。そのため、『釈軌論』は従来未解明であった仏教僧侶の諸側面に光をあてる。すなわち一人の仏教者の内に阿含と大乘とが矛盾なく両立すると示していること、ひとの多様性を前提とした経典受容のあり方が模索されていること、仏教の学修の起点として「仏陀のことは敬聴する」という実践が提示され、次代の育成が強く意識されていること、大乘仏教が興隆する時代状況のなか阿含経典と馬鳴詩とが再評価されていること、である。

研究成果の概要(英文)：This study focused on Vasubandhu's Vyakhyayukti, a compilation of discourses on methods for sutra exegesis handed down in the ancient and medieval Indian Buddhist tradition. We made a Tibetan text edition and Japanese translations of the entire text of Vasubandhu's Vyakhyayukti and Gunamati's Vyakhyayuktiika, restored the Sanskrit texts of the Agama scriptures and Asvaghosa's poetry quoted in them using the Sanskrit manuscript of the Tridandamala. This study has revealed (1) the content of the Vyakhyayukti in its entirety, (2) the traditional method of sutra exegesis in the Sarvastivada, (3) Vasubandhu's role as a preacher (dharmakathika), and (4) the scholarly genealogy from Asvaghosa to Vasubandhu.

研究分野：仏教学

キーワード：阿含経典 大乘経典 経典解釈 大乘仏説論 サンスクリット写本

1. 研究開始当初の背景

本研究は紀元後5世紀・北西インドの仏教僧ヴァスバンドゥ(Vasubandhu, 世親)の手になる『釈軌論』(*Vyākhyāyukti*)の文献学的研究である。『釈軌論』は大きく分けて二つの主題をもつ。一方は、阿含經典を一語一句精確に解釈するための經典解釈方法論である。他方は、阿含經典を初学者に解説する際の説法例集である。前者は「經典をどのように受けとめるか」に焦点を当てた仏教受容の詳細でもあり、後者は「經典をどのように伝えるか」に焦点を当てた布教の記録でもある。この二つの主題は「仏教の継承」という一点において結びつく。

5世紀以降、『釈軌論』は広く仏教者に参照され、その伝統は中後期インド仏教からチベット仏教に至るまで続く。世親以降の經典注釈文献は大抵が『釈軌論』の所説を念頭に置いており、14世紀チベットの『プトン仏教史』に至っては『釈軌論』に基づく仏教概論が展開されている。

ところが『釈軌論』を対象とする先行研究は少ない。その最大の理由はサンスクリット原典が未だ発見されておらず、参照可能な一次資料がチベット訳に限られる点にある。また『釈軌論』の解釈対象である阿含經典(広義の説一切有部系)はサンスクリット・漢訳・チベット訳のいかなる言語においても完全には現存しない。そのため『釈軌論』の研究に際しては、原典の不在と、解釈対象である阿含經典の原典の不足という二重の困難が伴う。

さらに、『釈軌論』は他の「世親論書」とは異なり漢訳されることがなかったため、東アジアの仏教世界に全く届いておらず、漢訳仏典に基づく伝統的知見の恩恵を直接得ることも難しい。そうした要因から、『釈軌論』の重要性は以前より認識されていたものの、これまでさほど研究の対象とされてこなかった。

その一方、阿含經典研究は近年、長足の進歩を遂げている。参照し得る写本史料、活用し得る工具書も格段に増え、『釈軌論』に世親が引用する阿含經典の出典を一定程度推測し得る状況を迎えている。

こうした背景を承け、報告者らは『釈軌論』の全体にわたる校訂テキストと和訳の作成を目的として、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、『釈軌論』の基盤資料(校訂テキストと和訳)を構築することに他ならない。『釈軌論』は第一に經典解釈を主題とする。經典、すなわち「仏陀のことば」をどのように解釈すべきか、という点は、全仏教徒にとって最も根源的な課題のひとつであり、この課題に一つの示唆を与えるのが『釈軌論』である。したがって、漢訳がないため東アジア仏教世界に伝播しておらず、その重要性が見逃されてきた『釈軌論』の基盤資料を構築する点にこそ、本研究の眼目がある。

3. 研究の方法

『釈軌論』は全五章から構成される。報告者らはその第1章(上野牧生「『釈軌論』第一章の研究」大谷大学博士学位請求論文、2009)、第2章(堀内俊郎『世親の阿含經解釋—『釈軌論』第2章訳註—』山喜房仏書林、2016)、第4章(堀内俊郎『世親の大乗仏説論—『釈軌論』第四章を中心に—』山喜房仏書林、2009)については既に校訂テキストと和訳の作成を一定程度完了していたため、残る第3章と第5章の校訂テキストと和訳を作成した。その際、グナマティの手になる『釈軌論注』(*Vyākhyāyuktiṭīkā*)の校訂テキストと和訳もあわせて作成した。

かくして『釈軌論』『釈軌論注』の全体にわたる校訂テキストと和訳を整えた後、校訂テキストと和訳の精度を上げるための作業として、『釈軌論』の各所に引用される阿含經典と、『釈軌論』に見られる世親の經典解釋文のサンスクリット回収を行った。その回収作業にあたっては、既刊の校訂本を探索するに留まらず、報告者ら自身が様々なサンスクリット写本を解読し、結果として幾つかの阿含經典(後述)と世親の經典解釋文を見出した。

さらに、『釈軌論』の歴史的な脈をより精確に把握するための作業として、『釈軌論』と平行する内容を有する『瑜伽師地論』『撰積分』(**Vyākhyāsamgrahānī*)と世親『縁起經釈論』(*Pratītyasamutpādayākyā*)の一部、また『釈軌論』に基づいてインド仏教を概論する『プトン仏教史』(*Bu ston chos 'byung*)第1章全体についても、校訂テキストと和訳を作成した。

総じて、本研究は文献学的研究方法を用いて、世親が参照したであろう阿含經典とアシュヴァゴーシャ(馬鳴)詩、『釈軌論』と全く同一の主題を論じる『瑜伽師地論』『撰積分』、『釈軌論』における經典解釋法を適用した世親自身による別著『縁起經釈論』、そして『釈軌論』と『縁起經釈論』を参照したヴィーリヤシュリーダッタ『決定義經注』(*Arthaviniścayasūtranibandhana*)、ハリパドラ『現觀莊嚴光明論』(*Abhisamayālamkāraḥ prajñāpāramitāvyākhyā*)の、各種サンスクリット写本・チベット語写本を参照した上で、それら諸文献自体のテキスト校訂と和訳を作成しつつ、『釈軌論』の校訂テキストと和訳を整備した。

4. 研究成果

新しく得られた知見は以下のとおりである。

『釈軌論』の全体を通して描かれる「仏教の継承」

世親は『釈軌論』第1章から第4章にかけて、「経を解釈しようと望む者」に向け経典解釈法を語る。一方、第5章では「説法者」に向け説法の見本を語る。この両者は、実は同一の仏教者を指す。すなわち、『釈軌論』では、阿含経典を多く聞き、聞を保持し、聞を積んだ経典解釈者（説法者）が、教化対象者（vineya）に対し、最初に「仏陀のことは敬って聴くこと」を説き、続いて「五つの形式」に沿って経典解釈を説く、という道筋が示される。それとは反対に、学び手である教化対象者は、敬いもって仏陀のことに耳を傾け、聴聞を続け、そして出家者となり、阿含経典を多く聞き、聞を保持し、聞を積み、やがて経典解釈者（説法者）になる、という道筋が示される。つまり経典解釈者（説法者）とその教化対象者がたどる道筋は相承することになる。したがって、伝え手（経典解釈者／説法者）から仏陀のことは受けとった学び手（教化対象者）が、さらに次代の学び手に仏陀のことは受けわたす、という形での「仏教の継承」が『釈軌論』の全体を通して描かれる。

教化対象者の多様性

世親の経典解釈は「阿含経典が教化対象者（所化）の多様性を前提として構成されている」との経典観によって支えられている。「五つの形式」からなる経典解釈法の第1項「経典の目的」によれば、我々教化対象者は常に愚昧であり、放逸であり、怯み怯えつつ、時に正しく修める者である。仏陀のことは、そうした我々の機根・時期などの多様性を前提とするものとしてある。教化対象者が時機を得て仏陀のことに敬いもって聴くとき、仏陀のことは必ず、道を示し、あるいは導き、あるいは励まし、あるいは喜びをもたらす、仏道を歩む勇気を与える。そのことが必ず、時機を得てその者に届くのであるから、そうした仏陀のことに、無駄なもの、無益なものなどにひとつない。『釈軌論』における「目的」を趣意的に要約すればこのようになる。

仏陀のことは「目的」をもつ。世親の経典解釈法では、それぞれの経典が独自の「目的」をもつと同時に、各経典を構成する語句もまた、それぞれの「目的」をもつ。阿含経典は教化対象者の貪・瞋・癡・慢などのふるまい（個々の有情において支配的な煩惱などの傾向性）に対する対治としてあるため、仏陀のことに敬いもって注意深く耳を傾ける者は、その時その時の自身の課題に応じた「経典の目的」を受けとることができる。一方、説法者たるものは、そのことに敬いもって注意深く耳を傾ける重要性を語り続けるとともに、目の前にいる教化対象者の時機に適う「経典」とその「目的」とを指し示すことが求められる。そうした「目的」が明示されることで、教化対象者はその学修活動を開始することから、「経典の目的」が経典解釈法の起点としてその冒頭に配置されたと推測される。

仏陀のことは敬聴すること

『釈軌論』第5章は、経典解釈を主題とする前四章と大きく異なり、仏陀のことは「どのように聴くべきか」という一点に焦点が当てられる。そうした第5章を貫く主題は「仏陀のことは敬って聴くこと」、すなわち「敬聴」である。この術語は世親自身が引用する『広義法門経』（*Arthavistara*、有部阿含では長阿含所属）に由来する。

世親によれば、敬意をもって仏陀のことに耳を傾けることが、仏教の学修の始点に位置づけられる。仏教の実践の第一歩となるのは、何よりもまず敬聴である。そして、聴聞者が自ずから聴こうとする姿勢をつくるのは、仏陀とその教え（また仏陀のことは伝える説法者とその解釈）に対する敬いである。聴き手の側に敬いがあったら始めて、聴き手は語り手のことに真摯に耳を傾け、そのことが自身の内部に留まり続ける。敬意をもって聴聞することが、法を受け容れる「器」となるための第一歩である。そして『釈軌論』第5章では、説法者の視点から、仏陀の教えを伝える者は、聴き手を「教えの器たるもの」とするため、聴き手に「敬聴」というあり方を促すべきだとする。

馬鳴から世親へ

『釈軌論』の校訂テキストと和訳の精度を上げるため、『釈軌論』と『釈軌論注』に引用される阿含経典と馬鳴詩のサンスクリット回収に努めた結果として、従来未解明であった阿含経典および馬鳴詩のサンスクリットを見出した。具体的には、貝葉写本『三啓集』（*Tridandamālā*）のなかに以下の阿含経典を見出した。

- ・『釈軌論』第1章に引用される『無常経』（増一阿含所属と推定）
- ・『釈軌論』第2章に引用される、華鬘の譬喩を説く経典（増一阿含所属と推定）
- ・『釈軌論』第5章に引用される『八無暇有暇経』（中阿含所属と推定）

これらの阿含経典については、松田和信名誉教授（佛教大学）の研究協力を得て、その全体にわたるテキスト校訂と和訳を公表した。

また、『釈軌論』の最後部では『莊嚴経論』（**Sūtrālamkāra*）と世親が呼ぶ、『大乘莊嚴経論』とは異なる出典、おそらくは馬鳴による『莊嚴経論』から韻文2偈が引用されている。その引用でもって『釈軌論』は締め括られる。そのほか、第5章では様々な馬鳴詩が引用され、『ブッダ

チャリタ』をはじめとする馬鳴詩に基づく説法の事例が示されている。それら馬鳴詩の一部を、同じく『三啓集』から回収した。阿含経典への「回帰」という『釈軌論』全体の方向性も含め、世親は馬鳴に大きく依拠していること、言い換えれば、馬鳴から世親へと至る学的系譜が新たに見出された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 27件）

1. 著者名 Toshio Horiuchi	4. 巻 51-4
2. 論文標題 What are the "Purposes" of Buddhist Sutras? From Vasubandhu's Logic of Exegesis (Vyakhyayukti)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Indian Philosophy	6. 最初と最後の頁 539-566
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10781-023-09542-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makio Ueno	4. 巻 2023-2
2. 論文標題 On the Listening to Buddha's Words with Reverence: The Very First Step of Buddhist Practice in Vasubandhu's Vyakhyayukti	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Cultures	6. 最初と最後の頁 109-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.38144/TKT.2023.2.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 41
2. 論文標題 『ブトン佛教史』試訳(4)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 51-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15070/0002000163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田和信 出本充代 上野牧生 田中裕成 吹田隆徳	4. 巻 29
2. 論文標題 老いと病と死と - 第11三啓経『無常経』の梵文テキストと和訳 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 佛教大学仏教学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toshio Horiuchi	4. 巻 11
2. 論文標題 Revisiting Some Topics on the Proof of the Mahayana's Authenticity in the Tarkajvala	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東洋思想文化	6. 最初と最後の頁 61-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 102-1
2. 論文標題 増一阿含の二経典 (2) - 第36三啓経 (不堅経) の梵文テキストと和訳 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大谷学報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田和信・出本充代・上野牧生・田中裕成・吹田隆徳	4. 巻 28
2. 論文標題 ごみの山に終わる華鬘の喩え - 第5三啓経の梵文テキストと和訳 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佛教大学仏教学会紀要	6. 最初と最後の頁 55-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 39
2. 論文標題 『ブトン佛教史』試訳 (3)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 273-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生・松田和信	4. 巻 113
2. 論文標題 アシュヴァゴーシャからヴァスバンドゥへ - 釈軌論と俱舍論に見る法滅観と馬鳴の詩作品 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 51-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎・上野牧生	4. 巻 39
2. 論文標題 世親作『釈軌論』第5章翻訳研究 (5)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 307-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toshio Horiuchi	4. 巻 70-3 (157)
2. 論文標題 Asvaghosa, Asanga, and Vasubandhu: from the Vyakhyayukti Chapter 5	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田和信・出本充代・上野牧生・田中裕成・吹田隆徳	4. 巻 27
2. 論文標題 毒蛇の喩え - 第26三啓経の梵文テキストと和訳 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佛教大学仏教学会紀要	6. 最初と最後の頁 47-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 101-1
2. 論文標題 増一阿含の二經典(1) - 第30三啓経(五事経)の梵文テキストと和訳 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大谷学報	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 111
2. 論文標題 第29三啓経(八難経)の梵文テキストと和訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 21-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makio Ueno	4. 巻 69-3 (154)
2. 論文標題 Vasubandhu's Humorous Stories: Preachers as Seen in Vyakhyayukti	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1072-1078
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生・堀内俊郎	4. 巻 22
2. 論文標題 世親作『釈軌論』第5章翻訳研究(3)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 153-178
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 37
2. 論文標題 『ブトン佛教史』試訳(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生・堀内俊郎	4. 巻 14
2. 論文標題 世親作『釈軌論』第5章翻訳研究(4)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南アジア古典学	6. 最初と最後の頁 147-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 9
2. 論文標題 『仏随念注』・『仏随念広注』に対する文献学的研究(2) - Arthaviniscayasutranibandhanaとの対比で -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 133-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00011566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Makio Ueno	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Buddha's Words and Their Interpretations in Vasubandhu's Vyakhyayukti	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Buddha's Words and Their Interpretations	6. 最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 55
2. 論文標題 『仏随念注』・『仏随念広注』に対する文献学的研究(1) - Arthaviniscayasut ranibandhanaとの対比で	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 147-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生・堀内俊郎	4. 巻 107
2. 論文標題 世親作『釈軌論』第5章翻訳研究(2)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 31-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 92
2. 論文標題 後代の経典解釈書に及ぼした世親作『釈軌論』の影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 218-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 35
2. 論文標題 『ブトン佛教史』試訳(1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 125-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 7
2. 論文標題 『法随念注』に対する文献学的研究 - 『釈軌論』、Arthaviniscayasutranibandhana との対比で -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 99-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00009797	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生	4. 巻 105
2. 論文標題 ヴァスバンドゥの經典解釈法 (1) - 經典の目的 (sutrāntaprayojana) -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 45-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toshio Horiuchi	4. 巻 66-3 (145)
2. 論文標題 On Interpretations of the anusmrti of the Three Jewels: *Buddhanusmrtivrtti, Vyakhyayukti, and Related Texts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 (128)-(134)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野牧生 堀内俊郎	4. 巻 7
2. 論文標題 世親作『釈軌論』第5章翻訳研究 (1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 117-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00009798	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 經典の目的とは何か？世親の『經典解釈方法論（『釈軌論』）』より
3. 学会等名 東洋学研究所二〇二三年度第二回研究発表例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toshio Horiuchi
2. 発表標題 Characteristics of the Exegesis in the Vyakhyayukti and its Influence on Later Treatises
3. 学会等名 「佛教論典の形成、注疏與傳播」工作坊（政治大學哲學系圖書室）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 馬鳴・無着・世親 - 『釈軌論』第 5 章より -
3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野牧生
2. 発表標題 世親の法滅觀とその典拠
3. 学会等名 大谷大学仏教学会研究発表例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上野牧生
2. 発表標題 世親の「漫談」 - 『釈軌論』にみられる説法者養成の一側面
3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第71回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野牧生
2. 発表標題 アシュヴァゴーシャの失われた莊嚴經論 (Sutralamkara) 探求
3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 後代の經典解釈書に及ぼした世親作『釈軌論』の影響
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makio Ueno
2. 発表標題 On the Listening to Buddha's Words with Reverence: The Very First Step of Buddhist Practice in Vasubandhu's Vyakhyayukti
3. 学会等名 International Symposium "Buddhism in Practice" Organized by The Center for Buddhist Studies, The Institute of East Asian Studies, Etvos Lorand University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makio Ueno
2. 発表標題 Word by Word: A Commentarial Techniques in Vasubandhu's Vyakhyayukti
3. 学会等名 XVIIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, University of Toronto, Canada, August, 20-25, 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 「如来十号」解釈の一展開 『仏随念注』『釈軌論』とその周辺
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第68回学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	堀内 俊郎 (Horiuchi Toshio) (60600187)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------